

ベンの家

この建物の名前は、かつてイギリスの貴族で冒険家のベン・アリソンが住んでいたという言い伝えに由来しています。この 2 階建ての木造建築は明治時代末期（1868 年-1912 年）のもので、

家の外装はほぼ完全に当時のままの状態を保たれており、精巧な歯型装飾のある軒蛇腹も含め、外壁はざらざらした漆喰塗りで、濃い茶色の木製の装飾が施されています。窓には目を引くパターンの塗装されたシャッターと窓台があり、幾何学模様のガラス窓になっています。屋根は当時典型的だった灰色の釉薬をかけた日本瓦で、入口のポーチには、独特の尖った屋根があります。この建物自体が神戸市の文化財に指定されており、通り沿いの境界壁も同様に指定されています；この境界壁には、建設当時にドイツから輸入された当時のままの赤レンガが今も残されています。

2019 年、内部はベン・アリソンのコレクションに着想を得た独特で想像力豊かな自然史展示に完全に变身しました；この展示にはヨーロッパの「キャビネット・オブ・キュリオシティーズ（珍品陳列室）」の様式が取り入れられています。ベンの家は従来のような博物館ではなく、芸術的な冒険の場となっています。アーチ型の内部ドアや精巧な壁板張りといった元々の内装の細部は保持されつつ、様々な種類の自然標本の芸術的なインスタレーションが、鮮やかな色

で塗られた部屋に配置されました。展示内容は変更される可能性があります。現在、赤い壁の1階にはホッキョクグマ、アメリカバイソン、スノーウルフなどを含む見事な剥製コレクションがあります。一面の壁には角のある頭蓋骨が並べられ、別の壁に沿って設置された木製の棚には、数十冊の本、標本、その他の珍品が陳列されています。

2階の中心となるのは青い壁の蝶の部屋です。個別に額装された蝶の標本が壁を覆い、その他の標本は造り付けの棚に置かれた小さなガラスケースに収められています。隣接する灰色の壁の部屋には、壁に掛けられたアフリカのマスクのコレクションがあります。また、何十もの背の高いガラス瓶には、想像力豊かに選ばれた貝殻やその他の自然標本とともに、鉛筆、紙、定規、銀食器、トランプ、その他様々な品々が入っています。ベンの家は従来の博物館ではなく、インスピレーションに富んだ芸術的冒険です。この家はうろこグループによって運営されています。